

## 平成 23 年度(2011)の基本方針と事業計画

社団法人日本エアロビック連盟定款第 5 条に定める事業内容に基づいて、平成 23 年度(2011)の基本方針と実施する事業を次の通り計画する。

### ・ 23 年度の基本方針

#### ( 1 ) ユース層を中心とした選手の育成と強化

- ・ 22 年度から始動したユースを中心とする「選手強化事業」を推進し、国際大会等(スズキワールドカップ、FIG 世界選手権大会)における一般部門でのメダル獲得を目指す。  
また、8月のユニバーシアード競技大会に向けた日本代表の強化合宿を実施し、国際競技力の強化をすすめる。

#### ( 2 ) 連盟本部及び県連盟組織の整備と活性化

- ・ 22 年度において、競技・審判、普及・指導の観点から選任した、参与・専門委員を中心に事業の見直しと中長期的な事業の策定をすすめる。
- ・ 設立準備委員会や組織が未整備となっている県について、有効適切な事業を通じて人材の発掘や育成を図り、47 都道府県すべてにおいて県連盟の設立と本連盟の加盟をすすめる。
- ・ 近隣県連盟との連携やブロック協議会等を通じて活動の活性化を図るとともに、国民体育大会の種目化の実現やスポーツ組織としての活動を地域で確立するために、都道府県体育協会への加盟を図っていく。

#### ( 3 ) 新公益法人制度への移行準備

- ・ 国のすすめる行政改革の一環として、現行の公益法人(財団、社団)は平成 25 年 11 月末までに新公益法人制度に移行手続きを行う必要があることから、新制度に照らして既存の事業内容、諸制度ならびに組織全体の整備を暫時すすめていく。  
なお、平成 24 年(2012)8 月を目標に新制度への移行手続きをすすめる。

#### ( 4 ) 諸事業の見直しと経費の節約

- ・ 22 年度においても諸事業の経費縮減に務めたが、経済情勢は現在も厳しく予断を許さない状況にある。23 年度においても引き続き諸事業の見直しや経費の節約など有効適切な措置はもとより、普及財源の確保の方策として助成団体等の申請を効果的にすすめる。

### ・ 生涯エアロビックに関する事業の推進

#### ( 1 ) 「スローエアロビック」を開発・提案

- ・ 総務省・文部科学省のスポーツ拠点づくり推進事業として、JOC ジュニアオリンピックカップ第 7 回全国エアロビック選手権大会 in 袋井の開催と地域活性化の観点から“もう 1 つのエアロビック”として新たに「スローエアロビック」の開発と提案を図って、袋井市民の健康づくりプログラムの普及・支援をすすめる。

#### ( 2 ) 学校体育としてのエアロビックの普及

- ・ 24 年度から実施される中学校の新学習指導要領から、今後、授業や部活動としてエアロビックの導入が期待されることから、授業づくりのためのエアロビック手引き書を作成して、「体づくり」や「ダンス」の観点から積極的なエアロビックの普及をすすめる。

(3) エアロビックを通じた糖尿病予防イベントの推進

- ・エアロビック指導を通じて、製薬メーカーがすすめる糖尿病予防を目的とした啓発イベント(全国7~8カ所)の協力支援をすすめる。

【期間】 23年9月~11月

【会場】 盛岡、金沢、東京、横浜、大阪、福岡(予定)

【内容】 イベントの企画運営と指導者派遣

(4) 障害者対象のエアロビックの普及

- ・障害者を対象とする「アダプテッド・エアロビック」の普及を推進する。

(財)国際障害者年記念ナイスハート基金の障害者イベントへの協力支援

【催事】 ふれあいのスポーツ広場

【会場】 全国10カ所予定

【内容】 アダプテッドエアロビックの指導と指導者の派遣

神奈川県エアロビック連盟のアダプテッドエアロビック事業の共催

【催事】 アダプテッドエアロビック・ナショナルフェスタよこはま2012

【会場】 横浜ラポール

【内容】 障害者のエアロビックの祭典の協力支援

(5) 第24回全国スポーツ・レクリエーション祭エアロビック大会の開催

- ・生涯スポーツの祭典を栃木県那須町と共催でエアロビック大会を開催する。なお、「スポレクとちぎ」以降の開催地が決定していないため、24年度以降の代替イベント等の検討をすすめる。

【期間】 23年11月5日(土)~7日(月)

【会場】 栃木県那須郡那須町

【内容】 (初日)自由演技、(2日)交流プログラム

(6) 「エアロビック技能検定」の推進

- ・「ジュニア・エアロビック検定」の普及を図ると同時に、24年度予定の「エアロビック検定」の改訂作業を進める。また、23年度末には複数地域での技能検定員養成講習会や研修会を開催し、改訂内容の周知を図っていく。

・競技エアロビックに関する事業の推進

1. 事業の方針

(1) 選手の育成と強化

- ・22年度から本格的に始動した「選手強化事業」は、23年度においてもユニバーシード日本代表選手の強化合宿を始め、8月下旬にルーマニアからナショナルコーチやモデルパフォーマーとして選手を招聘し、日本代表選手候補の強化合宿を行う。
- ・韓国体操協会との交流競技会や合同キャンプの開催など、積極的に国際交流を兼ねた選手強化をすすめる。
- ・10才以下のユース選手により効果的な育成を図るために、JOCジュニアオリンピックカップ予選会の競技方法を検討し、その整備をすすめる。

(2) 国内大会の整備と充実

- ・スズキジャパンカップ全日本エアロビック選手権大会の県予選を全都道府県で自主開催できるように整備を図るとともに、地区大会も開催県が主管ができるよう暫時運営等の標準化を図っていく。
- ・フライト部門(ユース、一般)の年齢別クラスの調整を図って、生涯にわたって競技を楽しむ愛好者の拡大や選手発掘の有効な機会として積極的にすすめていく。

(3) 国際大会への対応と整備

- ・スズキワールドカップは、22年度から国際体操連盟（FIG）の「FIGワールドシリーズ」を併設したことにより、一段と質の高い国際大会となってきた。  
また、エアロビックがワールドゲームズ、アジア選手権大会、アジア・インドアゲームズに続き、ユニバーシアード競技大会の正式種目となったことを受けて、国際大会の進展に合わせた日本代表選手の選抜方法や審判法、選手強化等の整備をすすめる。

2. 各種競技大会等の開催

(1) SUZUKI WORLD CUP 第22回世界エアロビック選手権大会の開催

- ・国際エアロビック連盟（IAF）、国際体操連盟（FIG）と共同で「FIGワールドカップシリーズ東京国際」を併設して開催。

【期日】 23年4月22日(金)・23日(土)・24日(日)

【会場】 東京体育館

(2) SUZUKI JAPAN CUP2011 第28回全日本エアロビック選手権大会の開催

都道府県大会

【期間】 23年4月～7月

地区大会

【期間】 23年9月～10月

【開催地区】 北海道、東北、東日本、中部、西日本、九州（全6地区）

全国大会

【期日】 23年10月30日(日)

【会場】 東京武道館（ ）

(3) JOCジュニアオリンピックカップ第7回全国エアロビック選手権大会 in 袋井 2012 の開催

シングル・トリオ部門予選

- ・シングル、トリオ部門の予選を「スポーツエアロビック 2011」8地区で開催予定

【期間】 23年5月～12月

【開催地区】 北海道、宮城県、埼玉県、東京都、静岡県、兵庫県、鳥取県、福岡県

グループ・チーム部門予選

【期日】 24年1月21日(土) 全国大会の前日に実施

【会場】 静岡県袋井市 静岡スタジアム・エコパサブアリーナ

全国大会

【期日】 24年1月22日(日)

【会場】 静岡県袋井市 静岡スタジアム・エコパアリーナ

(4) スポーツエアロビック 2011 の開催

大会概要

- ・愛好者から競技者までが参加する各種部門の総合大会として、全国10会場（予定）で開催する。
- ・原則2日間開催とする。（事情により、1日開催や日程・会場の分割開催も有る）
- ・部門により、全国大会等の予選会も兼ねて実施。

競技エアロビック

オープン大会（地域に関係なく参加可）

JOCジュニアオリンピックカップのシングル・トリオ部門予選

全国フライト選手権大会の一般・ユース予選

2012年のスズキワールドカップ、FIG世界選手権大会の一般男女シングル部門の  
第2次日本代表選考と一般グループ部門の日本代表最終選考

【期間】 23年5月～12月

【開催地区】 北海道、宮城県、埼玉県、東京都、静岡県、大阪府、兵庫県、  
鳥取県、福岡県、宮崎県（大阪と宮崎はフライトのみ実施）（予定）

生涯エアロビック

チームチャレンジ

【期間】 23年7月（予定）

【開催地区】 北海道、東京都

チームエキジビション

【開催地区】 北海道、宮城県、埼玉県、東京都、静岡県、兵庫県、鳥取県、福岡県  
（予定）

（5）第2回全国登録クラブエアロビック選手権大会の開催

【対象】 JAF競技登録クラブの所属選手、チーム

【期日】 23年7月18日（祝）

【会場】 東京体育館サブアリーナ

（6）第7回全国フライトエアロビック選手権大会決勝の開催

【内容】 フライト部門の全国決勝大会

【期日】 23年12月25日（日）

【会場】 兵庫県尼崎市 ベイコム総合体育館（尼崎市記念公園総合体育館）

（7）第2回全国ユースフライトエアロビック選手権大会、JOCチーム予選・グループ予選の  
開催

【期日】 24年1月21日（土）

【会場】 静岡県袋井市 静岡スタジアム・エコパ（サブアリーナ）

（8）第11回全日本学生エアロビック選手権大会、第2回全日本高等学校エアロビック選手権  
大会の開催

【期間】 23年11月～12月予定

【会場】 日本工学院八王子専門学校体育館 予定

3．国際競技大会等への選手、役員の派遣

（1）第26回ユニバーシアード競技大会の派遣

【期間】 23年8月18日～8月23日

【開催国】 中国・深圳

（2）国際体操連盟（FIG）主催のWorld Series大会の派遣

【期間】 23年5月13日～5月17日

【開催国】 ブルガリア

（3）韓国体操協会主催エアロビック大会（Invitational）の派遣

【期間】 23年6月（予定）

【開催国】 韓国

#### 4. 選手強化等に関する事業

##### (1) 強化合宿の開催

###### ユニバーシアード強化合宿

【期間】 23年5月～23年7月まで数回実施予定

【会場】 未定

###### 日本代表選手候補強化合宿（夏期合宿）

【期間】 23年8月25～31日実施予定

【会場】 タケダ体操クラブ（予定）

###### 日本代表選手候補強化合宿（冬期合宿）

【期間】 24年2月実施予定

【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター（予定）

###### 日本代表選手候補ミニ合宿（通年）

【期間】 23年11月～24年3月実施予定

【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター、他（予定）

###### アジア地域トレーニングキャンプ（派遣）

【期間】 23年7月～8月実施予定

【会場】 済州島、韓国（予定）

##### (2) 強化練習会の開催

###### 「JAFスーパーキャンプ」

【目的】 ユースからマスターズまでの競技者の底辺拡大

【期間】 23年10月～24年3月

【開催地区】 仙台、東京、大阪、福岡（予定）

#### . エアロビック指導者育成に関する事業

##### 1. 事業の方針

###### (1) 指導者の養成と資格更新研修会の促進

- ・エアロビック普及の要となるエアロビック指導者を養成するために、各都道府県連盟に対してJAF認定ならびに日体協公認指導者の養成講習会の開催委託をすすめていく。  
また、資格更新、指導力向上の機会を図るために都道府県連盟、指導専門委員が主催する研修会等を促進し、都道府県連盟事業の拡大と組織の活性化を図っていく。

###### (2) JAF認定校、承認校の促進

- ・大学、短大、専門学校で学内で指導者養成と資格認定ができるJAF認定校制度を推進し、学校でのエアロビック指導者の教員採用や技能検定会の実施等、エアロビックの導入を積極的に働きかけていく。特に23年度においては都道府県連盟と協力して地域の情報を共有し、認定校の増加をすすめる。
- ・JAF認定校制度と同様、学内で(財)日体協の公認エアロビック指導者の資格取得ができる講習免除承認コース(承認校)の働きかけもあわせて行う。

###### (3) 審判員の養成

- ・今後、大会の開催増や、国民体育大会の種目化に必要な審判員の確保からも今後は各都道府県において安定した審判員数の確保が不可欠となってくる。  
このためにも、22年度に引き続き都道府県連盟や競技登録クラブとも連携して積極的に審判員の養成をすすめる。

## 2. 指導者養成等養成講習会、研修会の開催

### (1) 公認スポーツ指導者養成講習会

- ・「公認スポーツ指導員(専門科目)講習会」を都道府県連盟と協力して開催  
【会場】 滋賀、福岡を予定、期間は調整中

### (2) JAF 認定キッズ・ジュニアエアロビック指導員養成講習会

- 【期間】 23年6月18日(土)~19日(日)
- 【会場】 江東区有明スポーツセンター(東京都)

### (3) JAF ナショナルキャンプ 2012

- ・各種の指導者養成講習会と資格更新研修会を総合的に開催  
【期間】 24年2月21日(火)~26日(日) 予定
- 【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター

### (4) エアロビックセミナー

- ・JAF 認定指導者、公認エアロビック指導者の資格更新を目的として開催。  
【会場】 東京、静岡他を予定

### (5) エアロビック認定校の養成講座

認定校説明会の開催

- 【期日】 2011年6月10日(金)
- 【会場】 品川区立総合区民会館「きゅりあん」

23年度指導員養成講座実施(予定)の認定校

#### a. キッズ・ジュニアエアロビック指導員養成講座

- ・日本工学院八王子専門学校
- ・修紅短期大学
- ・山梨学院短期大学
- ・浜松大学

#### b. アクアエアロビック指導員(種)養成講座

- ・日本工学院八王子専門学校
- ・山梨学院短期大学
- ・園田学園女子大学、短期大学

## . 国際交流事業の推進

### (1) 全国スポーツ・レクリエーション祭日韓スポーツ交流の実施

- ・(財)日本体育協会の行う文部科学省委嘱事業「日韓スポーツ交流事業」(10種目)により、韓国チームの23年全国スポーツ・レクリエーション祭(栃木県那須郡那須町)の受入れと、栃木県チームの韓国版スポレク祭への参加を協力してすすめる。

## . 各種関連団体との協調と連携

### (1) (財)日本体育協会(JASA)との協調と連携

- ・「公認スポーツ指導者育成制度」の推進を一体となつてすすめる。
- ・同協会の助成による各種講習会の講師を育成する「公認スポーツ指導者競技別講師全国大会」を協力してすすめる。

### (2) (財)日本体操協会(JGA)との協調と連携

- ・国際体操連盟(FIG)と共催による大会の開催、各種国際大会への審判員・選手の派遣等を協力してすすめる。

- (3) 国際エアロビック連盟(IAF)との協調と連携
  - ・スズキワールドカップの共催、国際体操連盟(FIG)との協調等、エアロビックの国際普及を協力してすすめる。
- (4) AFCとの協調と連携
  - ・エアロビック・フィットネス協議会(AFC)と、各種共同事業と定期的な情報誌の発行協力を図りながら国内における業界発展をすすめる。

## ・組織の整備と支援に関する事業の推進

- (1) 県連盟設立の促進
  - ・地域の組織づくりとして、県連盟の設立と本連盟の正加盟、準加盟の促進をすすめる。
- (2) 未組織となっている地域の組織づくりの促進
  - ・未組織の京都府、奈良県、和歌山県、高知県、徳島県、島根県、佐賀県の7県について、各地域の有資格者と連携して組織づくりをすすめる。
  - ・四国地区は、香川県エアロビック連盟を中心に四国エアロビック連合(仮称)の検討をすすめる。
- (3) IT化による各種管理システムの整備
  - ・登録選手、認定資格者、賛助会員等の各種情報の一元管理システムの整備を23年、24年にわたってすすめる。これにより、大会や講習会等の円滑な申込みや活動履歴の確認など、効果的、効率的な情報サービスを図っていく。
- (4) 都道府県体育協会への加盟の促進
  - ・国民体育大会への採用種目とエアロビックの地域普及体制の整備を目的として、都道府県連盟の都道府県体育協会への加盟の促進をすすめる。
  - (現在の加盟県)
    - 山形県、神奈川県、山梨県、愛知県、鳥取県、大阪府、岡山県の7県
- (5) 都道府県連盟の広域的な協調と共同事業の促進
  - ・近隣の都道府県連盟が共同して行う地区ブロックの事業やイベント等の促進をすすめる。
    - 例：「OHSカップ」(大阪、兵庫、滋賀3府県連共催の大会)
    - 「四国エアロビック・フライト選手権大会」(香川県連主催)
  - ・都道府県連盟が交流と協調等を目的として設立する地区単位の協議会活動の促進をすすめる。
    - 例：関東エアロビック協議会、東北エアロビック協議会
- (6) 競技エアロビック登録クラブの育成等の整備
  - ・選手養成の拠点づくりとして、競技エアロビック登録クラブ認定をすすめてきたが、愛好者クラブ・サークル育成の必要性も高まっているところから、現行の登録クラブ認定を一旦休止して、クラブ認定制度全体の見直しと整備をすすめる。
- (7) 全国アダプテッドエアロビック協議会(仮称)の育成と促進
  - ・障害者のエアロビック普及と指導者のネットワークを目的として、神奈川県エアロビック連盟を中心に「全国アダプテッドエアロビック協議会(仮称)」の準備委員会の発足に向けた支援を行う。

## ・広報活動の推進

### (1) NHK との定時番組の制作協力の推進

- ・本年度はNHK と次のエアロビック番組の制作協力をすすめる。
  - SUZUKI WORLD CUP 2011 第 22 回世界エアロビック選手権大会
    - ・NHK BS1 で放送予定
  - SUZUKI JAPAN CUP 2011 第 28 回全日本エアロビック選手権大会
    - ・NHK 総合で放送予定
  - 全国スポーツ・レクリエーション祭エアロビック大会(栃木大会)
    - ・NHK BS2 で放送予定
  - NHKBS2 「ドウ!エアロビック」
    - 【放送】 月曜(昼)12:00~12:25
    - 【再放送】 土曜(朝) 6:00~6:25
  - NHK 教育「スポーツ教室」
    - ・22 年度に引き続き、23 年度年内に収録・放送予定

### (2) 各種媒体を活用した情報提供の推進

- JAF 季刊誌「スマイル」の定期発行
  - ・年 4 回の発行をすすめる。
- JAF ホームページの充実
  - ・インターネットを通して、タイムリーにエアロビック情報が得られるよう JAF ホームページの充実をすすめる。
- その他の機関誌、雑誌等への情報提供
  - ・機関誌「AFC PRESS」、フィットネス専門誌「フィットネスジャーナル」を通じて各種事業の紹介をすすめる。

## ・財政の確立

- ・エアロビック普及振興の諸事業の推進を目的に、本年度は次の助成申請をすすめる。

〔2011 年度申請内容〕

(単位:千円)

申請先	申請内容	要望金額
(財)日本体育協会	競技別講師全国研修会	600
スポーツ振興基金	全国フライト・エアロビック選手権大会	1,168
スポーツ振興基金	日本代表選手候補強化合宿	1,873
スポーツ振興基金	第 26 回ユニバーシアード競技大会	1,045
ミズノ国際交流財団	スズキワールドカップ 2010	1,000
申請合計		5,686

2011 年 1 月現在